

2011年4月

(社) 神奈川人権センター

担当：工藤、阿部

パープルダイヤル男性相談と神奈川DVに悩む男性のための電話相談の比較

1. 事業の実施要綱

- ① 目的：潜在化している被害者を掘り起こし、確実な支援に結びつける
- ② 方法：被害者に寄り添った24時間電話相談を集中的に実施
フリーダイヤル 0120-941-826
- ③ 対象：女性、男性、外国人、被害直後のせい暴力被害者等全国に広報啓発

2. 神奈川拠点の取り組みは「男性回線用電話相談」

- ① 専用電話2回線設置 フリーダイヤルから転送 1日4人体制（シフト制）
- ② 期間 2月8日（火）～3月27日（日）
- ③ 相談日 月曜日～金曜日（但し土、日、祝日を除く）
- ④ 時間 11時～18時までの7時間（半日単位でもOK）

3. 相談実施後のまとめ

※「パープルダイヤル男性相談」と「神奈川DVに悩む男性のための電話相談」を比較するため、神奈川人権センターが独自に分類・整理を行ったもの。

1) 総数は606件

①都道府県別相談件数

北海道	29件	富山	5件	岡山	3件
青森	1件	石川	3件	広島	3件
岩手	4件	福井	1件	山口	5件
宮城	19件	山梨	5件	香川	5件
秋田	1件	長野	6件	愛媛	3件
山形	4件	岐阜	6件	高知	2件
福島	14件	静岡	11件	福岡	42件
茨城	15件	愛知	21件	佐賀	12件
栃木	27件	三重	12件	長崎	1件
群馬	49件	滋賀	4件	熊本	6件
埼玉	38件	京都	5件	大分	2件
千葉	30件	大阪	53件	宮崎	1件
東京	72件	兵庫	10件	鹿児島	3件
神奈川	39件	奈良	4件	沖縄	2件
新潟	16件	島根	2件	不明	10件

和歌山・鳥取・徳島3県はゼロ

② 相談者の年齢別		(比較：DVに悩む男性相談)
・10代	27件	0件
・20代	73件	4件
・30代	145件	12件
・40代	121件	11件
・50代	38件	14件
・60代	30件	8件
・70代～	8件	0件
・不明	164件	11件
計	606件	60件

③ 主訴別統計		(比較：同上)
1. DV被害	72件	5件
2. DV加害	86件	30件
3. 性暴力被害	96件	0件
4. 性暴力加害	21件	0件
5. DV・性暴力以外の夫婦関係	37件	1件
6—a. 親族・友人・知人等からのDV・性暴力被害	51件	6件
—b. 親族・友人・知人等からのDV・性暴力加害	6件	5件
7. 家族関係(家族間暴力を含む)	55件	3件
8. その他の人間関係	31件	5件
9. 労働問題	23件	0件
10. 心の問題(精神障害、自殺等)	50件	0件
11. 意見・苦情	16件	0件
12. 女性の相談(息子のDVなど母親からの相談は除く)	12件	2件
13. その他	50件	3件
計	606件	60件

4. 神奈川人権センター実施の「DVに悩む男性のための電話相談」

1) 相談件数は60件

① 目的：DVの被害者・加害者を問わず、DVに悩む男性を孤立させないことを目的に男性の悩みに耳を傾ける相談体制を整備することが、悩む男性の心の安定を図り、被害者や支援者の安全確保に繋がるため。

② 対象：DVに悩む男性や親族、知人、友人など

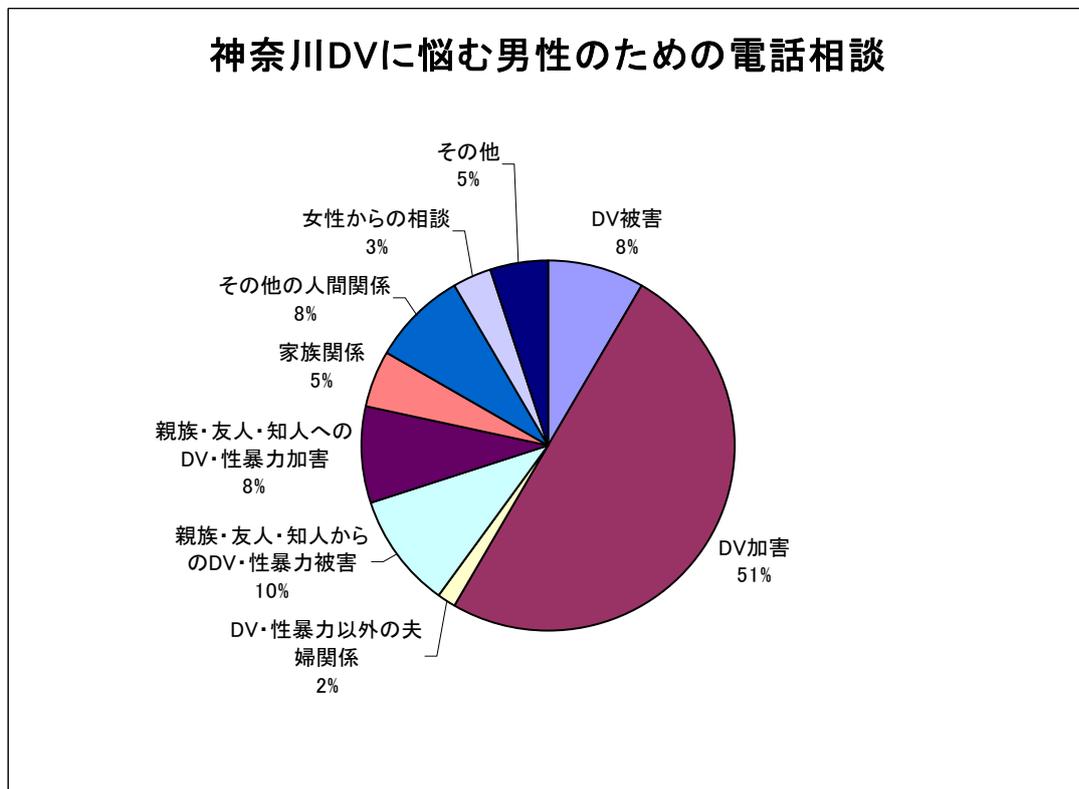
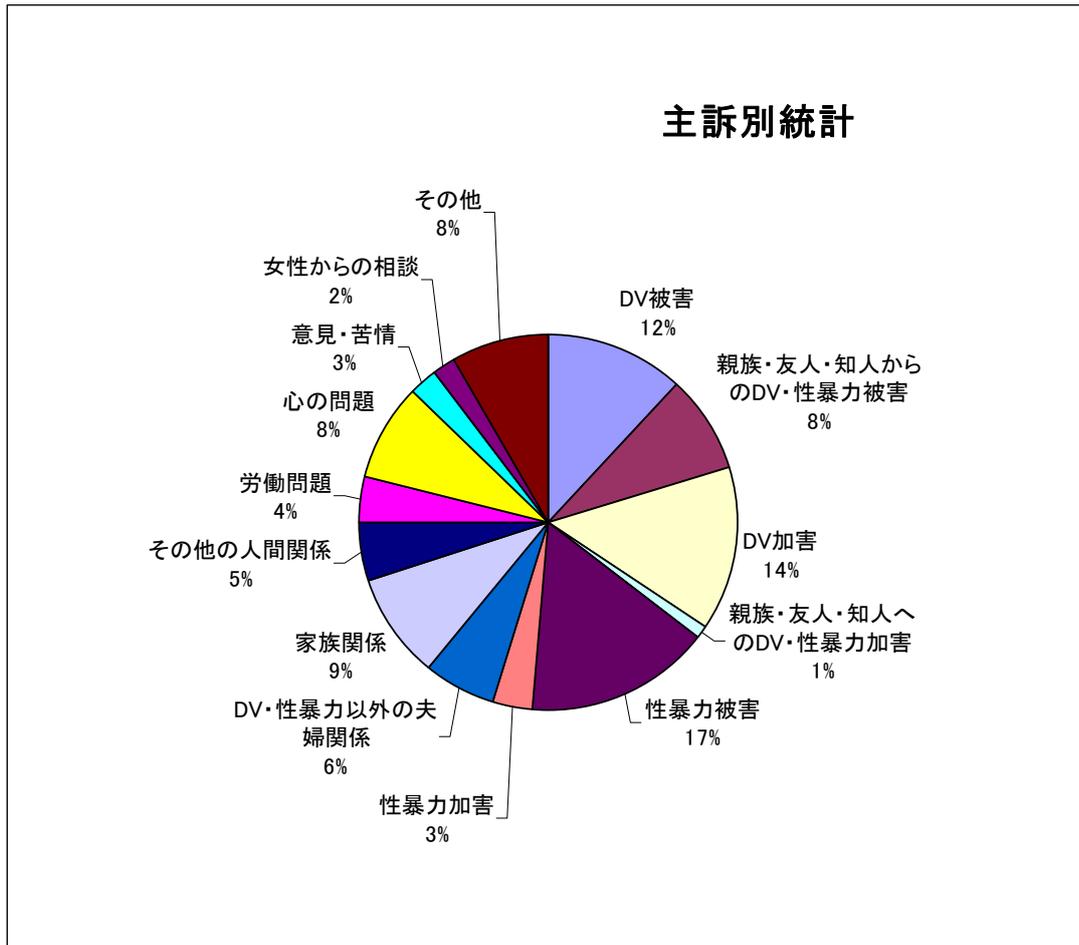
③ 相談件数：2010年7月末～2011年3月末まで60件

④ 日時：毎週月曜日午前11時～午後4時の5時間

⑤ 方法：独自に設置している相談電話に当事者が電話で相談する(有：通話料金)

⑥ 相談経路：市区町村のDV相談窓口、警察、新聞、ホームページ

2) 上記主訴別グラフ



5. 「パープルダイヤル男性相談」と「神奈川DVに悩む男性のための電話相談」比較

1) 年齢

- ① パープルダイヤルの10代の相談のほとんどのケースは性被害であり、加害者は実母ないし義母で、同一人物が繰り返し電話をかけてきた。神奈川DVでは10代の相談者はゼロ件で、電話相談の目的に「DVに悩む」と明示しているためである。
- ② 30代と40代に多いのはパープルダイヤルも神奈川DVも同様だが、神奈川DVでは50代がトップの14件になっている。息子のDV加害や娘のDV被害を心配して親世代が相談電話をかけてきたのである。

2) 主訴別統計

- ① 最初にあげなければならないのは、パープルダイヤルでは「性暴力被害」が相談のトップだが、かながわDVではゼロという特徴があったことである。パープルダイヤルの男性相談では、性暴力被害だけでなく、DV被害や加害を主訴とする場合でも性に関わる内容が多くを占めているという特徴がある。中には、テレフォンセックスまがいの電話も見られた。これは無料で電話ができるという安易さを悪用した側面といえる。

しかし、男性の性被害を全てからかいと切りすてることはできない。男性には性被害がない、というのは偏見であり、むしろ男性被害者にとっては理解されないのではないかと、言う不安から被害は潜在化しやすいと考えられるため、都道府県単位で相談窓口が必要である。
- ② 神奈川DVのトップは「DV加害」の相談で全体の半数を占めている。妻から自分の言動がDVだといわれた、実際に妻と子どもが出て行った、警察も行方不明者捜索願を拒否された、保護命令が発令されたが原因がわからない、などと訴えている。パープルダイヤルでの「DV加害」は全体の14%だが、内容としては神奈川DVと同様であり、加害者の戸惑いや怒り、孤立感が伝わってくる。しかも、DV的な自分の性格を何とか治したい、と訴える加害者も相当多くあり、両刃の刃ではあるがこれも都道府県単位で取組み、実績を持ち寄り、本格的な加害者対策に取り組む必要がある。
- ③ 「DV被害」についてパープルダイヤルでは全体の12%であり、相談内容を聞く限り妻から精神的なDV被害にとどまらず、身体的なDVとともに子どもへの虐待もあり、深刻な場合もあった。それはかながわDVでも同様で、妻による子への虐待を止めようとして矛先が夫に向かうというケースもあった。